

未来ノート

-202Xの君へ-

空手

うえ くさ あゆみ
植草歩

応援が活力の源

いじられキャラ

強いから負ける

一番のファンは

SNS駆使「子の憧れに」

2020年東京五輪で追加競技として、五輪に初登場する空手。創始国である日本の組手女子のエースが68歳超級の植草歩(26)はJALだ。昨秋の世界選手権は2連覇を逃して銀メダルだったが、東京五輪は金メダルを狙っている。

技術的には中段突きを得意とする植草が、自らの活力の源と考えるのがファンからの応援だ。それを初めて感じたのは、初優勝した15年の体重無差別での全日本選手権の決勝だった。

相手は前年まで2連覇していた元世界王者の染谷香子。母校帝京大の先輩でもある第一人者への声援が圧倒的に多いなか、「植草、

頑張れ」の声が聞こえた。自分はヒール役と思っていたのに、その声援で力がわ



いたのを覚えている。

以来、空手界では他の選手に先駆けてツイッターなどのSNSを駆使し、ファンに呼びかける。「見てくれた人が応援してくれると、うれしい」。最近試合で負けたとき、特にきちんと報告する。「落ち込んだり、ふさぎ込んだりすると、応援してくれる子どもたちの憧れの存在にはならない」。サポートしてくれる関係者に、そう教えられたからだ。

世界選手権で敗れた翌朝、スペインのホテルで感

謝の気持ちを投稿した。

「ここまで一緒に練習してくれた人達、サポートしてくれた人達のおかげでメダルが取れました。ありがとうございます。ただ私は弱かった！(中略)またみんなのパワーが必要です」

「空手界のきゅーいばみゆばみゆ」と呼ばれる人気者の植草。投稿するSNSには、「あなたの笑顔は私を元気にしてくれる」などのコメントが寄せられる。

空手の普及と将来の五輪出場を夢見る子どもたちのためにも、東京五輪の金メダルはどうしても必要だと考えている。「私は言葉を信じている。SNSでのつながりで周りが幸せになれば、私も幸せになる。それが力になるんです」

⑤プレミアリーグ東京大会の決勝でフランス選手と対戦する植草歩＝2018年10月⑥国際大会で優勝し、帰国したに羽田空港でSNS「帰国報告」を投稿する

謝の気持ちを投稿した。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。